

『神様からのプレゼント』

'21/12/19(クリスマス礼拝)

聖書箇所:ヨハネの福音書 3 章 16 節(新約 p.177)

さて、皆さん…、改めまして、クリスマスおめでとうございます。今日はもう19日なので、もう、皆さんは、クリスマスプレゼントの用意をされているでしょうか？…ところで、皆さんは、一体どうして、クリスマスのこの時期…、お互いにプレゼントを贈り合うのか、ご存知でしょうか？

⇒実は、現代の日本の習慣は、もとをただせば、アメリカから伝わってきたもので…、そのアメリカには、イギリスの習慣が伝わっていったのだそうです。しかし、そういったことの、そもその起源(＝ルーツ)は、実は、聖書に書かれてありますように…、今から約2,000年前に、神様が、私たち人類に対して、素晴らしいプレゼントを用意してくださった！ということに由来しています。

命題: 神が、私たちのために用意してくださった「贈り物」とは？

そこで、クリスマス礼拝の今日は、神様が私たちのために用意してくださった、素晴らしい贈り物について、一緒に考える時を持ちたいと思います。クリスマス礼拝の今日、私が皆さんに、ご紹介したい聖書のみことばは、「聖書の中の聖書」とも言われる…、聖書の中で、最も有名なみことばの一つである、ヨハネ 3:16のみことばです。…そこには、このように、教えられています。『神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。』って…。

I・救い主として与えられたイエス様！⇐『ひとり子をお与えになった…』

今、読んだみことばには、神が、『そのひとり子をお与えになった…』ということが教えられてありました。『そのひとり子』こそ、私たちの“救い主”として与えられたイエス様であります！何と、天の神様は、2000年前も前に、私たちのために、“救い主”を与えてくださったのです！

●神が私たちのために与えてくださった、約束の救い主

新約聖書のルカ伝 2 章に記されてありますように…、イエス・キリストがお生まれになったその日、天から、神の使いが現われて…、『きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。』と、羊飼いたちに伝えました…。イエス様は、この日この時…、ただ偶然に、お生まれになったわけではありませんでした…。イエス様が生まれたのには、そこに、「大きな理由 & 崇高な目的」があったのです！…と言うのも、イエス様は、ただの人間では無かったからです！だって、一体、世界のどこに、生まれる何百年も前から、預言されて…、生まれてくる人間がいるのでしょうか？…あの時、御使いが教えてくれていたように、イエス様は、『救い主』であり…、イエス様は、救い主としての働きを全うするために、この地上へ来てくださったのです！普段、私たちが口にして、イエス・キリストという呼び名の…、「キリスト」とは、「油注がれた者＝救い主」という意味なのです。

確かに、普通、どこで家庭であっても、お子さんが生まれると、その家族や親戚がお祝いします。それは、ある意味、そのお子さんが、その家庭に与えられた子どもさんであるからですね？しかし、イエス様の場合、その誕生をお祝いしたのは、その家族だけではありませんでした…。そこには、御使いが現われ…、その御使いに導かれた羊飼いたちと…、その後、約1年後には、遠い外国から博士たちがやって来て…、まだ1歳かその幼子であったイエス様に、礼拝と捧げ物を捧げるために、わざわざ、旅をして、やって来た！ということが伝えられています。

でも、一体どうして、そんなことが起こったのでしょうか？一体、イエス・キリストとは、どういった存在であったのでしょうか？⇒実は、そういったことのヒントが、ここヨハネ 3:16 で教えられています。それは、ここ 16 節の後半にある、『ひとりとして滅びることなく…』という部分です。実は、聖書のみことばは、私たち人間が、神の怒り(ローマ 1:18)の故に、『滅びる』べき存在である！ということを教え…、警告してくれています。実は、そのために…、私やあなたには救い主が必要で…、そのために、神は、イエス・キリストを、この世へと遣わしてくださったのです！

●聖書が教える、真の神様とは？

そもそも、私たち人間は、すべてを御支配なさっておられる、唯一の神様によって造られました。いえ、私たち人間だけでなく…、実は、私たちが目にするすべての存在は、この御方によって造られたのです！そのため、すべての生き物たちには皆、何らかの共通性があり…、すべてのものが見事なまでに調和して…、今も存在し続けているのです。

確かに、私も…、学校では、進化論という、「すべてのものが原始的な生き物から始まって、それが、やがて、複雑で高等な生き物へと進化していった…」というようなことを教わりました。しかし、よくよく、そのことを調べてみると、実は、進化論とは、ただの学説であって…、確実に証明された事実ではないのです。だから、今でも、「進化“論”」と呼ぶわけです。つまりは、まだまだ、推論にしか過ぎないのです！

でも、本当に、何もないうちから、さらに高度な…、より優れたものが、自然発生的に、でき上がっていくのでしょうか？神様という存在なしで…、勝手に、この宇宙が出来上がって…、すべてのものが秩序を持って成り立っていく…なんていうことが、本当に起こり得るのでしょうか？

聖書はこう教えます…、「神であるわたしが、すべてのものを造り…、それらすべてを維持している…。わたしの他に神は居ない！」って…。皆さんは、そのことについて、どのように考えられますか？…私たちは、そういったことについて考えないといけなし、皆さんも、それなりの答えを出さないとイケないのです！

果たして、私たちの周りで、造り主の存在なしに…、また、何の理由もなく、存在しているものがあるのでしょうか？皆さんは、この世界が、本当に、造り主なる神様という存在なしに、出来上がったという風にお考えでしょうか？…例えば、私が今持っている、このスマホ…。このスマホは、誰かがデザインして、工場で組み立てられて、今、こうして便利に使っています。果たして、このスマホ以上に、優れた能力を持った私たちの体やこの自然界が、造り主無しに、自然発生的に出来上がるのでしょうか！

残念ながら…、私たち人間は、真の神様の存在そのものを、この目で見ることはできません。しかし、神様が造ってくださったものによって、私たち人間は、神様の存在や神様の御性質が、ある程度は分かります。それは、神様が、私たち人間のことを、そのように造ってくださったからなのです！

それと、神様は、私たちに明確なメッセージを残してくださっています。(聖書を持ち上げて…)それが、この聖書のみことばです。間違いなく、この聖書自身が、そのように教えてくれています。「これは、神からのお言葉である！すべてを造られた神が、このように教えておられる！」って…。だから、聖書という書物は、数ある書物の中でも、他に類を見ない特別な書物として、今も、多くの人たちに読まれていて…、大きな影響を与え続けているのです。そのことは、今も教会に継承してくださっているクリスチャンの皆さんが、立派な証拠です。だから、どうか、皆さんには、ぜひ、今日だけでなく…、来週も、来年以降も、教会に通い続けてくださることをお勧めいたします。

II・神様からの、最高の「愛」！⇐『世を愛された…』

また、真の神様は、皆さんのことを愛しておられます！しかも、それは、普通の愛ではなく、最高の

“愛”である！と聖書は教えてくれています…。だからこそ、私たちは、そのことを知らないでいてはいけな
いのです。

●ひとり子であられたイエス・キリスト＝イエス様は、神であられた！

ここヨハネ 3:16 を見ても、ただ単に、「神は、この世を愛された…」とは書かれておりません。ここには、
その神様からの愛の大きさを伝えるべく、『…そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された！』と書
かれてありますでしょ？…皆さん、親がひとり子を大切に思う…、それ以上の愛の大きさを、想像でき
ます？…聖書のみことばは、天の神様が、私たち人間に注いでくださった愛は、親がひとり子に注ぐよう
な…、いえ！それ以上の愛だと言うのです！

でも、ここで、皆さんにはぜひ注意していただきたいことがあります。…確かに、教会では、イエス・キ
リストのことを、「子なる神」と呼ぶことがあります。そのことが時々、誤解を招いてしまっているのですが…、
イエス様は、父なる神様の、所謂、「子ども」なのではありません。もしも、イエス様が、父なる神様の子
どもであるなら…（＝ある時に、造られたか、あるいは、生まれた存在であるなら…）、聖書は、決して、
イエス様のことを神であると、教えるはずがありません。…と言うのも、聖書が教える神様とは、何者より
も先に存在しておられる…、唯一の造り主であられるからです！

イエス様も…、そして、当然、父なる神様も…、永遠の初めから存在している神様であるが故に、親
も子もありません。どちらも、初めから存在している！と聖書は教えています。神様に、始まりなんてない
のです！父なる神…、子なる神…という言い方は、お互いの存在の（主従？位置？）関係について、
私たち人間に分かり易いよう説明されているだけなのです。

しかも、この聖書は、この父なる神も…、そして、子なるイエス様も…、私たち人間には考えられない
ような強い結び付きで繋がれていた！ということを教えてくれています（ヨハネ 14 章など）。だから、この聖
書のみことばが教えてくれている真の神様は、「三位一体の神」と言いまして…、父なる神と子なるイエ
ス様、そして、聖霊なる神の3つで…、お一人の神であられる！ということを教えているのです。

●イエス様は、あなたのために十字架にかかってくださった！

しかし、今日のみことばは、そんな強い結び付きで繋がれた関係を絶ってまで…、イエス様が、この地
上に送られて来た！ということを教えてくれています。それは、すなわち…、神様が、それほどまでに、こ
におられる…、私や皆さんのことを愛してくださっている！ということを意味しています。

しかも、そのイエス様は、この地上に来てくださっただけではなく…、皆さんもご存知のように、十字架に
かかってくださいました…。それは、私や、ここにおられる皆さんの罪を、イエス様がその身に負って、本来、
私や皆さんが受けなければならなかった罪の罰を、イエス様が身代わりに受けてくださったからでした。そ
のこともまた、神様の…、皆さんに対する愛の大きさを物語っています。

確かに、イエス様は十字架にかかりましたが…、それは、イエス様が何か罪を犯したから…、あるいは、
何かの政治的な陰謀によって…、イエス様がそのことを意図することができず、無理矢理に、十字架へ
と追いやられた、…というのでは決してありません。イエス様は、自ら進んで、十字架にかかっていかれた
のです！…と言いますのも、まず、イエス様ご自身が、そのことを教えてくださっています。ある時、イエス
様は、弟子たちに、「本当の、良い羊飼い」について教えてくださいました。そこで、イエス様がおっしゃった
のは、「良い羊飼いとは、羊のためになら、自分のいのちさえも捨てることができる…」ということでした。そ
の時に、イエス様は、『わたくしが自分からいのちを捨てるのです。』（ヨハネ 10:18）とおっしゃって…、イエス
様が、自ら、死なれることを、前もって、予言しておられました…。

それだけではありません。ゲツセマネの園で、イエス様が捕えられた時、弟子の1人が、イエス様のこ
とを捕えようとした兵隊に切りかかった時でも、イエス様は、その弟子の行動を止めて、「ご自分が十字架

にかからなければならぬ…」という趣旨のことをおっしゃいました。（その他：マタイ 20:17-19；26:30-35；
26:62-63）。そのように、イエス様は、私やあなたの罪のために…、その罪を贖うために…、自ら進んで、
十字架にかかってくださったのです！それは、言い換えますと、神様の、皆さんへの愛が、それほどまでに
大きかったから！なのです…。

Ⅲ・裁きではなく、罪からの 救い！≪『永遠のいのちを持つため…』

最後、3つ目。神様は、皆さんに対して、滅びではなくて…、罪の裁きからの“救い”を用意してくださ
いました。そのことが、このみことばでも教えられてあります。最後に、もう少しだけ、お時間をいただきま
して、そのことを確認させてください。

●私たちが裁かれるべき理由とは？

ここ、ヨハネ 3:16 には、『…それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つ
ためである。』ということが書かれてあります。実は、「私たち人間の、もともとの運命は滅ぼされるべきもの
であった…」というのが、聖書の教えです。…と言いますのも、今まで見てきましたように、天の神様が、
私たち人間のことを愛し…、私たちに必要なことを教えてきてくださっているにも関わらず…、私たち人間
が皆、その神に逆らい続けてきたからです！

そのことを、聖書のみことばは、このように教えてくれています。ローマ書 1 章、『20 神の、目に見えな
い本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、
はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。 21 というのは、彼らは、神を知って
いながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗く
なったからです。 22 彼らは、自分では知者であると言いながら、愚かな者となり、 23 不滅の神の御
栄えを、滅ぶべき人間や、鳥、獣、はうもののかたち似た物と代えてしまいました。 24 それゆえ、神は、
彼らをその心の欲望のままに汚れに引き渡され、そのために彼らは、互いにそのからだをはずかしめるよう
になりました。』（ローマ 1:20-24）

⇒このように、神は、私たち人間が、自分たちの造り主である神様のことを知ろうとしないばかりか…、
与えられた恵みに感謝もせず…、自分たちに都合の良い、偽りの神々を作っては…、自分の好き勝
手に歩んでしまっている、と言うのです。それが、聖書の教える「罪」です。そのように、私たちが犯した罪
には、必ず、それに相応しい報い…、罰が伴います。それこそ、この聖書が教える「永遠の裁き」なので
す！

●罪の裁きからの「救い」

しかし、真の神様は、皆さんへのプレゼントとして…、罪の裁きからの救いの道を用意してくださって
います。それが、聖書の教える「救い」です…。神は、そのために、イエス・キリストを、この世に遣わしてくだ
さり…、私や皆さんの犯した罪の身代わりとして、罪の罰を受け…、罪の清算をなしてくださったのです。

あとは、ただ…、私たちが、神様の差し出してくださっている、その救いを受け取るだけで良いのです。
そのことを、神様は待っていてくださっています。…いかがでしょう？あなたは、この神様からの、最高のプ
レゼントである、「罪からの救い、裁きからの救い」を受け取っておられるでしょうか？

聖書の中に、このような言葉があります…、『私たちがこんなに素晴らしい救いがないがしろにしたばあ
い、どうしてものがれることができません。この救いは最初主によって語られ、それを聞いた人たちが、確か
なものとしてこれを私たちに示し（てくださったのです…）』（ヘブル 2:3）って…。神は、私たちのことを愛して
…、最高の犠牲を払って…、その愛を全うしてくださいました。

<励ましの言葉>

もしも、私たちが、この神様からの愛を拒むなら…、もう、そこに救いはありません。自分の犯した罪の…、本来、私たちが受けなければならない、正当な報いがあるだけです。どうか、今日、このイエス様をあなたの救い主として…、信じていただきたいと思います。私たちは、いつか必ず、この地上での人生を終えて…、裁き主でもあられる神様の前に立たされる日がやってきます。どうか、その前に、真の神様を信じ、神様と共に歩む者となってください。

この後、私たちは、もう1曲、讃美歌を歌っていきます。毎年、言っていますように、この讃美歌 121 は、厳密には、クリスマスソングではありません。しかし、この賛美歌ほど、イエス様の生涯を簡潔、また、明確に教え…、私たちにイエス様の素晴らしさを訴えてくれる賛美歌は、そう多くないと思います。次は、この讃美歌 121 を賛美して、神様に感謝を捧げたいと思います。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。